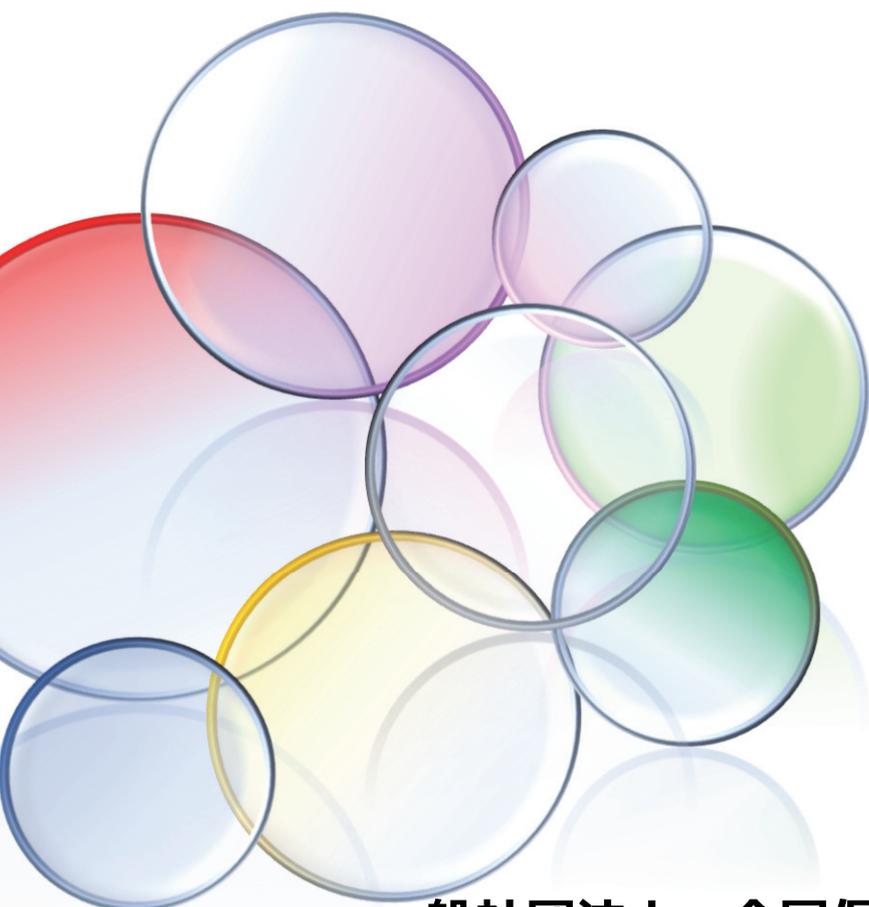


令和2年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業（厚生労働省）
保育士養成施設における保育士の魅力向上に関する調査研究

Q & Aから学ぶ好事例

保育士の魅力向上のための 養成校の取組



一般社団法人 全国保育士養成協議会

目次

はじめに	P1
キーワード(1) 中高生への働きかけ	P2
Q1 中学生や高校生に保育士の魅力を伝えるのに養成校はどのような貢献ができるでしょうか。	
Q2 学生募集の場面で保育の仕事についてどのように伝えたらよいでしょうか。	
Q3 中学生や高校生に向けて養成校はどのような情報発信をすることができるでしょうか。	
Q4 入学前教育ではどのような取組をすればよいでしょうか。	
キーワード(2) 教科目の工夫	P4
Q1 保育士の魅力を伝えられるような教科目の工夫を教えてください。	
Q2 教員同士で連携して授業をするために、どのように進めたらよいでしょうか。	
Q3 保育士の資格を取らない選択をした学生には、保育士の魅力が伝えられません。	
キーワード(3) 実習指導	P6
Q1 実習後に保育に対してマイナスな印象を抱き、学ぶ意欲が低下してしまうことがあります。	
Q2 実習指導担当者だけでは実習に不安を抱く学生や個別に指導が必要な学生への指導が行き届きません。	
Q3 実習担当者間の連携がとれておらず、教員によって伝える内容が異なることがあります。	
Q4 実習指導の内容が、実習のマナーや書類の書き方の指導ばかりになっています。	
Q5 保育所実習の事前指導では、設定保育を想定した模擬保育を行っています。	
Q6 実習を行う順序、実習施設の選定、実習の実施方法に関する工夫を教えてください。	
キーワード(4) キャリア教育	P10
Q1 学生主体の職業選択を促すためにはどうしたらよいでしょうか。	
Q2 キャリア教育を特定の教職員で行うことに限界があります。	
キーワード(5) 正課外活動	P12
Q1 教科目や保育実習の他に学生が保育の現場に入る機会をどのようにつくったらよいでしょうか。	
Q2 保育士の魅力向上につながる学生の主体的活動をどのようにサポートしたらよいでしょうか。	
Q3 保育現場でのボランティア活動にどのようなサポートすればよいでしょうか。	
キーワード(6) 保育現場等との連携	P14
Q1 実習指導等の授業や、キャリア教育・就職支援の一環で、ゲストティーチャーを招いて現場の話をしていただいたり、懇談会の場を設けたりしていますが、それ以外に連携できることはあるでしょうか。	
キーワード(7) 就職支援	P15
Q1 就職希望者と就職先のミスマッチングが生じないか不安です。	
Q2 入学後、保育士になることに自信がなくなり、他職種への就職を希望する学生がいます。	
キーワード(8) リカレント教育等卒後支援	P17
Q1 卒業生が就職先に適応できているか心配です。	
Q2 日々の授業だけでなく、リカレント教育も行うのは、養成校の業務が増えて大変だと思っています。	
保育士の魅力向上に関する取組:チェックリスト	P19
保育士の魅力向上の取組イメージ図	P20
おわりに	P21

はじめに

「Q&Aから学ぶ 保育士の魅力向上のための養成校の取組」は、保育士養成校が保育士の魅力向上のための取組を進める際のガイドとして作成しました。

「保育の現場・職業の魅力向上に関する報告書」（2020年9月30日、厚生労働省「保育の現場・職業の魅力向上検討会」）において、養成校における教育の充実と質の向上が求められています。

そこでは、「養成校における教育の充実と取組の発信」「養成校の教育の発信」「保育実習の改善に向けた共通研修の開始」「卒業生のフォローアップ」という観点から、養成校に期待される取組が示されています。

この冊子は、そうした取組を実際に養成校で進めていく際のヒントを集めて、Q&Aの形で示したものです。

令和2（2020）年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業（厚生労働省）「保育士養成施設における保育士の魅力向上に関する調査研究」における調査結果のうち、特にヒアリング調査を踏まえ、また、全国保育士養成協議会が過去に実施した子ども・子育て支援推進調査研究事業の調査結果等も参照しながら、執筆担当者間で議論を重ねて作成しました。

子どもの最善の利益を保障するために保育の質の向上が求められ、そのための人材の確保・育成が喫緊の課題となっています。保育の魅力を発信して、多くの人材を集め、その専門性を育てていくことが重要な課題となる中で、養成校の役割は小さくありません。

養成校を開き、養成教育の質を向上させるとともに、地域の保育現場や関係機関との協働を進めていく必要があります。

この冊子のさまざまなヒントをぜひ参考にいただき、できることから一歩ずつ取組んで参りましょう。

2021年3月

執筆者

伊藤理絵（岡崎女子短期大学）、熊谷享子（豊橋創造大学短期大学部）
江津和也（淑徳大学）、水落洋志（東海学園大学）、矢藤誠慈郎（和洋女子大学）

*所属は2021年3月現在

キーワード(1) 中高生への働きかけ

Q1. 中学生や高校生に保育士の魅力を伝えるのに養成校はどのような貢献ができるでしょうか。

A. 養成校の教員の専門性を通して保育について伝えることができます。

- * 系列や提携している中学校・高校等では、生徒たちに対して養成校の教員が保育に関わる授業を行うことがあります。
- * 高大・高専連携の協定として「総合的な学習の時間」等の学びとして保育士養成教育の一部を開放したり、保育講座を実施したりする養成校も少なくありません。
- * その際には自らの専門的な立場から保育という営みについて積極的に語ってみましょう。生徒たちにとって保育という営みの面白さや奥深さを知るきっかけとなります。

Q2. 学生募集の場面で保育の仕事についてどのように伝えたらよいでしょうか。

A. オープンキャンパスや出張講義では、高校生が保育の仕事を知る貴重な機会であることを踏まえて語りかけましょう。

- * オープンキャンパスや出張講義は第一義的には養成校の学生募集のためのものです。しかし、保育士の魅力を高校生に伝える貴重な機会ともいえます。こうした意識も持って取り組むことが必要です。
- * 模擬授業として子どもの発達過程、保育技術、保育の現状などを講義し、保育士として求められる専門性について理解を促すことが期待できます。
- * オープンキャンパスで現場で保育士として働く卒業生の話を取り入れることによって、保育士の魅力を伝えている養成校もあります。
- * オープンキャンパスでは在学生による活動を取り入れ、その姿をみてもらうことも考えられます。
- * 系列の保育施設がある場合には、そこで実習する在学生の姿や子どもの様子を見学するプログラムを入れることによって、具体的に保育の仕事について具体的なイメージをもってもらうことも期待できます。

Q3. 中学生や高校生に向けて養成校はどのような情報発信をすることができるでしょうか。

A. ICTを活用して保育士の専門性や魅力について発信することができます。

- * 中高生はスマートフォンなどの情報機器を日常的に活用しています。
- * 養成校のウェブサイトを進路選択の資料として閲覧する機会は少なくありません。ウェブサイトを充実させるようにしましょう。
- * 保育の仕事を知ってもらうためにはウェブサイトに資格や職業、保育の専門性について情報を掲載することが有効です。
- * ブログや動画サイトを活用して、授業や課外活動の様子を積極的に発信してみましょう。保育士になるための学びについて具体的なイメージをもってもらうことにつながります。

Q4. 入学前教育ではどのような取組をすればよいでしょうか。

A. 入学後の初年次教育とつながるような取組をしてみましよう。

- * 総合型選抜や推薦入試によって秋には進路が決定している高校生も少なくありません。養成校の学生としての意識づけを図るためにも入学前教育は大切です。
- * 養成校での学習を不安なく開始できるようにするため、基礎学力の維持向上や保育の表現技術などの習得を促すような課題を出すことが考えられます。
- * 子どもを理解し、保育の魅力を感じられるような書籍を読むことを課題とすることも考えられます。
- * 入学前教育での新入生の状況を踏まえた入学後の支援が必要です。また、入学後の教科目と連続させることも求められます。
- * 入学後のオリエンテーションや教科目において、入学前教育の課題に対するフィードバックすると効果的です。

キーワード(2) 教科目の工夫

Q1. 保育士の魅力を伝えられるような教科目の工夫を教えてください。

A. 保育士の魅力や学生に身につけて欲しい力を見直した上で、何を伝えるのか整理しましょう。

- * 建学の精神やカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに基づき、保育士としてのあるべき姿を明確にし、教員間で共有した上で、どの教科目でも一貫して学生に伝えられるようにすることが基本です。
- * 子どもたちと直接関わることは、魅力が伝わりやすく、実践と理論の往還を行いながら学びを深めることができます。
- * 実習以外にも子どもと関わるができるようにボランティアやインターンシップ等の教科目を設けたり、既存の教科目の中で子どもと関わる機会を作ったりすることはできます。
- * 関連する教科目の中で子どもが楽しめる活動を企画、実行することによって、どうしたら子どもが楽しめるのか、子どもの目線で考えられる力や実践力が身につきます。
- * 各教科目の中で保育士の魅力を伝えつつ、保育に関わる現状や課題も伝え、理解できるようにしておきましょう。実習での経験について、現状を踏まえて、考察することができるようになります。これは意欲低下を防ぐことにつながります。

他にも……

- * 保育は「生涯にわたる人格形成にとって重要な時期」に関わることから、子どもだけでなく、生涯発達の視点も重視する。
- * 初年次教育の教科目の中で、保育士の魅力を伝える内容を組み込む。
- * 宿泊研修などの生活場面で、保育現場での取組と関連付けて指導していく。

Q2. 教員同士で連携して授業をするために、どのように進めたらよいでしょうか。

A. お互いの教科目を見合って内容を精査したり、他の担当者の教科目と連携した授業を計画したり、できるところから取組んでみましょう。

- * 全ての教員がいきなり連携しようとしても難しいものです。話しやすい教員同士でまずは試みてはいかがでしょうか。
- * 気軽に話ができるようにランチミーティングなどを開催してもいいでしょう。
- * これらに取り組むために、連携の必要性の理解や保育士養成への熱意が求められますが、組織の長の役割も大切です。所属する教員の意識改革、新任者への教育、保育学領域以外を専門とする教員への支援等、よりよい保育士養成を目指した組織づくりに、積極的に取り組むことが求められます。

他にも……

- * ルーブリックを通して、学びが足りない部分や重複部分などを明確にし、それを基に話し合う。

Q3. 保育士の資格を取らない選択をした学生には、保育士の魅力が伝えられません。

A. 保育の基礎を学ぶ教科目を選択前の時期に設定したり、卒業必修にしたりしてはいかがでしょうか。

- * 保育が学べる環境があるのに、学ばないまま卒業するのはもったいないことです。
- * 保育の道に直接進まなくても、保育のすばらしさを別の領域で広める役割を担ってほしいと思います。
- * 他の分野に進んだ卒業生が保育の魅力を発信することで、今まで保育について興味がなかった人や、誤解している人たちに保育の魅力を伝えることができるのではないのでしょうか。

キーワード(3) 実習指導

Q1. 実習後に保育に対してマイナスな印象を抱き、学ぶ意欲が低下してしまうことがあります。

A. 個々に話を聞き、体験を客観的に捉えられるようにしましょう。

- * 様々な実習施設がある中で、学生自身が思い描く保育とは異なる場面に遭遇することはあるでしょう。
- * 様々な原因が考えられますが、学生自身の保育に対する理解不足や保育理念の不一致、自身の能力不足や適性の有無の自覚等があります。
- * 学生が体験したマイナスのエピソードについて丁寧に聴取し、それに対して保育の基本を伝えながら、学生が客観的に振り返ることができるように指導していきます。
- * 学生のわだかまりを解消するためには、個別、あるいは少人数での事後指導が望ましいでしょう。
- * 学生指導を通して、教員自身が学生にとっての対人援助職モデルとなり得ることも意識して欲しいところです。

- * 慎重に実習施設を選択していても、学生が不適切な保育を目にしてしまう可能性もゼロではありません。
- * 教員が情報を把握し、場合によっては、実習施設に事実を確認して対応する必要があります。

- * 保育士養成倫理綱領にあるように、「学生の学ぶ権利」を保障するため、実習施設の情報を把握することに努め、「指導能力が充実している施設に実習配当を行う」ことも保育士の魅力向上につながります。

他にも……

- * 学生同士が体験を共有し、保育の在り方をディスカッションできるグループワークなどの機会を作る。
- * 学生の特性と実習施設の指導内容とのマッチングを考慮して実習施設を配属する。
- * 実習訪問時に教員が反省会や保育カンファレンスに参加する。
- * 学びの可視化と自己課題の明確化を行い、意欲につなげる。

Q2. 実習指導担当者だけでは実習に不安を抱く学生や個別に指導が必要な学生への指導が行き届きません。

A. 他の教員や職員とも連携しながら進めましょう。

- * 実習指導担当者だけで丁寧な個別指導を行うことは難しいでしょう。
- * 全教員に学生を少人数ずつ割り振り、実習に関する指導の役割を一部担えないでしょうか。クラス担任や実習訪問の担当者等が考えられます。
- * 全教員が関わることで、実習指導に共通認識が持てることも利点です。
- * 実習に関わる職員と連携し、学生への実習支援において協働をすすめることも効果的です。

他にも……

- * 実習を終えた先輩の話聞く機会をつくる。
- * 現場で活躍している卒業生や職員の話聞く。
- * 大学内に実習センターや子育て支援室等設置し、実務経験のある保育士をおき、学生指導において協働していく。

Q3. 実習指導担当者間の連携がとれておらず、教員によって伝える内容が異なることがあります。

A. 他の担当者の実習指導を見る機会を作ってみてはいかがでしょうか。

- * 実習指導担当者が連携できないことで、共通認識ができず、ちぐはぐな内容を伝えてしまうこともあります。それによって不利益を被るのは学生であり、保育士の魅力を損なってしまうことにもつながります。まずはお互い見て学ぶところから始めてみましょう。
- * 学生にとって最初の実習の実習指導の授業に、実習指導担当者全員が関わって進めるようにすることも効果的です。
- * 連携が円滑に進むことによって、各実習での学びが連続的に、発展的に深まっていくでしょう。

他にも……

- * 実習の種別を超えて、指導を一本化する。
- * 全教員が実習指導に関わる。

Q4 . 実習指導の内容が、実習のマナーや書類の書き方の指導ばかりになっています。

A. 他の教科目で取組めることはないかを見直しましょう。

- * マナーや言葉遣い等に関する事、一般的な書類の書き方など、キャリア教育に関わる教科目や就職支援の講座などで取組めることはないでしょうか。各担当者と連携し、それぞれの教科目に含まれる内容を検討しましょう。
- * どの教科目で何をするか話し合うことで、教科目間で重複する内容や教員間の教授内容のずれを整理することにもつながります。
- * 記録の方法や計画の立案等、多様な方法を用いる園が増えてきています。特定の書式の記録を知っているだけでは対応できなくなってきました。
- * 書式に関わらず、子どもの育ちを見る視点、環境構成の意味、養護と教育を踏まえた保育者の言動のねらいなど、学生が何を見て、何を学んだらよいかを押さえた指導が必要です。
- * 実習指導では具体的なイメージが持てるように、映像資料を用いたり、定められた実習以外に、短期間の見学実習やボランティア等を行い、理解を深めることも重要です。

Q5 . 保育所実習の事前指導では、設定保育を想定した模擬保育を行っています。

A. 様々な保育形態について学べる機会を作りましょう。

- * 子どもの主体性を重視した保育を学ぶためには、画一的な方法での模擬保育だけでは不十分ではないでしょうか。
- * 例えば、ドキュメンテーションなどの記録に基づいて子どもたちが自由に遊べるコーナーの環境を考えてみたり、一つの遊びから、遊びの発展の可能性を考え、それに対する必要な環境を話し合ってみたりといった、発展的な内容を取り入れてみるのもいいでしょう。

他にも……

- * 領域に関する教科目等と連携し、様々な保育を学べるようにする。
- * 実習指導の中でも子どもとの関わりを通して学べるように現場と連携する。

Q6. 実習を行う順序、実習施設の選定、実習の実施方法に関する工夫を教えてください。

A. 育てたい保育士の姿に学生が近づけるように、実習の積み重ねや連続性を意識しつつ、どの実習で何を学ぶのかを明確にし、それに合った方法を工夫しましょう。

- * 子どもとしっかり向きあい、子ども一人一人の気持ちや背景を十分に理解した支援についての学びを重視する場合、施設実習を最初の実習とするのも一つです。
- * 保育所実習と施設実習の学びを連続性、発展性のあるものにするために、担当者が連携し、学びの内容を整理しましょう。
- * 特に保育所の実習指導担当者が保育所のみを想定して伝えるのではなく、福祉職としての保育士の在り方を伝える意識を持つことも大切です。
- * 保育所で2回実習を行う（保育実習Ⅱを選択する）場合、実習施設の選定方法によって配慮する内容も変わってきます。
- * 同一実習施設では、統一された指導や評価を受けることができます。また、個人内の子どもの発達や理解が深まります。しかし、学生が多様な保育を学ぶ機会が少なくなります。
- * 異なる実習施設では、1回目とは異なる保育方針、保育方法等の理解ができますが、子どもとの関わりや実習園の理解が新たに必要となり、学びの積み重ね、発展という面ではやや弱くなります。
- * 保育所の実習施設として、幼保連携型認定こども園、小規模保育事業や事業所内保育事業も認められていますが、学びの蓄積を考慮して実習施設を選定していきましょう。

他にも……

- * 実習を各学期の中間に設定し、教科目ごとに実習と関連させながら学べるようにする。
- * 実習を分割して行い（例えば週に1日ずつ）、その都度振り返りを丁寧に行う。
- * 同じ実習施設で長期にわたる実習を計画することで、個々の子どもの発達や心理について理解が深まり、長期の指導計画に基づく保育内容や保育士の関わりなどを理解することができる。

キーワード(4) キャリア教育

Q1. 学生主体の職業選択を促すためにはどうしたらよいでしょうか。

A. 具体的な年次計画と目標を個別に作成し、継続的なキャリア形成を行いましょ。

- * 保育士への憧れや魅力をもち入学してきた学生が多い中で、卒業時の具体的な保育士像をイメージできる学生は少ないのではないでしょか。
- * 具体的な保育士像をイメージするためにも、入学後にどんな保育士になりたいかやそのためには何を学ぶべきかなどの計画を立て実行することが必要となります。
- * 明確な目標や計画が不明確な状態が継続すると、保育職への関心や意欲が低下し、それは学習場面にも影響します。
- * 在学中に、将来を見据え、具体的な保育士像をイメージするために年次計画と目標を立て、PDCAサイクルを踏まえた継続的なキャリア形成を行いましょ。
- * 具体的な目標設定のためにも、現場や自治体等との連携も重要になります。現場で子どもたちと関わったり、保育士の職務を目の当たりにする中で、より具体的な保育士像をイメージできたり、保育職の魅力への新たな気づきにつながります。
- * 以上のような取組を通じて、学生が保育職の魅力を感じ取れるようなキャリア教育を行っていきましょ。

他にも……

- * キャリア形成にかかわる講座などの年次計画を再考する。
- * 学生の職業選択をあらかじめ絞りすぎることで、主体的に思考する幅を狭めてしまっている可能性もある。したがって、在学中に学生自ら社会に出るための方向性を決定できる教育を行う。

Q2. キャリア教育を特定の教職員で行うことに限界があります。

A. 全学的なキャリア教育の位置づけや、プログラムを再考してみましょう。

- * キャリア教育は、担当教職員のみで担い実施されていることが多いと思います。
- * しかしながら、そこに関わる教職員だけでは、最終的な出口を意識するあまり就職試験の対策講座などが中心になってしまっているかもしれません。
- * 本来、キャリア教育とは、キャリア形成、職業意識、社会人・職業人の基盤となる能力の獲得を目的とするものです。
- * したがって、全学的に学生へキャリア教育を行っているという意識とプログラムの再考が必要になります。
- * 例えば、保育士の魅力を伝えるために、教科目や正課外の活動を通してどのような工夫をしているかなど、全てが点ではなく、線でつながることを意識して、キャリア教育を行っていくことが大切です。
- * 以上のことから、再度、全学的にキャリア教育を見直し、一人ひとりの学生がどのような人生を歩みたいかや、やりがいをもってできる仕事とは何かを考えられる力の形成をサポートできるようにしましょう。

他にも……

- * 全学的なキャリア教育の位置づけや理解、個々ができることなど改めて見直すためにも、教職員研修を通じて共通理解を図る。
- * 個々のキャリア形成に応じたサポートを行うための年次計画と目標を立てる。
- * 個別にきめ細やかなサポートをするためにも教職員と学生の間に関係が基盤となるため、互いに信頼関係を構築できる人間関係づくりを行う。

キーワード(5) 正課外活動

Q1. 教科目や保育実習の他に学生が保育の現場に入る機会をどのようにつくったらよいでしょうか。

A. 保育施設に学生が行く機会が得られるようにサポートしましょう。

- * 保育現場で実際に子どもや保育者の姿を見る機会は保育実習に向けた準備となるだけでなく、保育士という職業への理解にもつながります。
- * 授業の空き時間などに学生が系列の保育施設や近隣の子育て支援センターに定期的に赴くことなどが考えられます。
- * 保育の現場に入ることは学生にとってハードルが高いものです。教職員がきっかけをつくるのが大切です。養成校の教職員が保育施設と学生との橋渡しをし、時間や人数などの調整をすることで円滑に活動を進めることができます。ある養成校ではこうしたサポートによって、任意であっても、ほぼすべての学生が参加している例もあります。
- * 保育現場で、子どもや保護者と関わることによって子どもの成長・発達を実感することができます。また、保育士の働きかけもみることができます。これを通じて保育の仕事のやりがいや保育士の魅力を感じることもつながります。
- * 絵本の読み聞かせや手遊びの経験がきっかけとなり、保育実習に向けた学びの意欲を高めることにつながります。
- * 定期的に子どもや保護者と関わることで実習に向けて自信をもつことができます。

Q2. 保育士の魅力向上につながる学生の主体的活動をどのようにサポートしたらよいでしょうか。

A. 保育士の魅力向上につながるクラブ・サークル、プロジェクト活動をサポートしていきましょう。

- * 人形劇やパネルシアターなど児童文化財等に関わるクラブ・サークルがあり、保育施設などで公演活動を行っている養成校もあります。

- * 保育士になる上での貴重な体験です。保育施設との橋渡しを行ったり、顧問をつとめるなど、活動が活発に進むようなサポートすることが教職員には期待されます。
- * 学園祭などで、子どもを対象とした遊びのワークショップなどイベントを開催することも学生が成長する機会となります。学生が主体的に取り組むことを前提としつつも、必要に応じて教職員が専門的な見地からサポートするとよいでしょう。
- * 多様な保育のあり方を知るため、学生がさまざまな保育現場に赴くなどのプロジェクト活動を行っている養成校もあります。保育にかかわる勉強会など学生の主体的な活動を教職員が専門的な見地から適宜サポートしています。

Q3. 保育現場でのボランティア活動にどのようなサポートをすればよいでしょうか。

A. 教職員がボランティアのきっかけづくりを支援しましょう。

- * 学生にとって保育現場におけるボランティアは子どもと関わる貴重な経験となり、学生の成長を促します。また、保育士としての自己の適性を見極めたり、その後の学びの方向性を見定めたりする機会でもあります。
- * 保育実習がきっかけとなることが多いようですが、初年次の学生にはチャンスがありません。養成校の教職員が紹介を行うことなどがが必要です。
- * ボランティアを行うのはどこでも良いというわけではありません。ボランティア先によって保育士の魅力を感じるか否が左右されます。養成校と実習や就職でつながりがある信頼できる保育施設をボランティア先として養成校の教職員が集約して、学生に紹介できるとよいでしょう。
- * 養成校の教職員がボランティアの事前・事後指導を行ったり、適宜相談に乗るなどフォローすることで学生の成長につながります。

他にも……

- * 保育現場における長期のインターンシップを導入によって保育の魅力向上につなげている実践例もある。
- * 保育所等におけるアルバイトを推奨することが考えられる。単に求人情報を伝えるだけでなく、適宜教職員がアドバイスをを行うことが大切。

キーワード(6) 保育現場等との連携

Q1. 実習指導等の授業や、キャリア教育・就職支援の一環で、ゲストティーチャーを招いて現場の話をしていただいたり、懇談会の場を設けたいしていますが、それ以外に連携できることはあるでしょうか。

A. 「実習指導以外の授業」「実習指導」「キャリア教育」のように、大きく3つのカテゴリーに分け、保育現場・自治体・保育団体等とどのような連携がなされているか、組織的に情報共有しましょう。

- * カテゴリー別に整理して情報共有することで、組織的な連携と各教員による個別の連携が行われている現状を把握することができます。その際、関連部署の職員も含めて、それぞれの取組に対する目的や思いを語り合うことで、教職員で協働的に保育士養成を行っていくことができるでしょう。
- * それぞれの取組の内容を見直した時、重複していれば役割分担することで教育効果が高まったり、一方での連携を継続し、一方では新たな取組を行うことで更なる充実を図ることもできます。
- * 教員が個別に行っている連携は、授業担当者の変更や異動等が生じた場合につながりが切れてしまい、継続されない可能性があります。組織的に継続していく必要のある取組なのか、各教員の個別の連携としてその教員に任せたままにしておくのか、カリキュラムポリシーやディプロマポリシーの観点から検討し、必要と思われる取組については、組織的に行っていきましょう。

他にも……

- * 同じ法人内や近隣の園・施設等の存在は、大きな強み！共に保育士養成を行っていく。
- * 園・自治体・保育団体等が企画・主催している行事やイベント、研修を調べ、授業等で連携できないか検討する。
- * 潜在保育士の掘り起こしや復職支援は、リカレント教育の一環として自治体等と連携して行うこともできる。

キーワード(7) 就職支援

Q1. 就職希望者と就職先のミスマッチが生じないか不安です。

A. 学生の個々の特長や就職先などに関する情報を教職員で共有しましょう。

- * 依然として保育士不足が続いています。したがって、就職希望者は、多種多様な施設から希望する就職先を選択することができます。
- * しかしながら、選択の幅が広がることで、就職先が求める人材と就職内定者の特長に齟齬が生じ、早期離職につながる可能性があります。そのことにより保育士の魅力を喪失することにつながることも考えられます。
- * 就職支援はその担当部署が中心となることが多いでしょう。しかし、より学生の特長を理解するためにも、ゼミ担当教員やキャリア支援・進路支援部署などと連携しつつ、入学時より細やかに面談等を行い、その内容を共有することが大切になります。
- * 例えば、面談記録を共有フォルダの中にデータとして蓄積することで、個々の進路に対する個々の意向の変化を把握するなど良いでしょう。
- * 就職先の状況も卒業生や現場と連携し、常に情報のアップデートをし、教職員間で情報共有することで、俯瞰的に就職希望者と就職先の適合性を図ることが可能となるでしょう。

他にも……

- * 学生自身の自己理解を深めるためにもキャリア教育とのつながりを見直す。
- * より保育職の魅力に気づくため、普段から学生が様々な現場へボランティアなどに行くことを促す。
- * 在学生在が卒業生と懇談会を行う中で、各施設への理解や保育士の魅力などをより具体的に理解できるようになる。

Q2. 入学後、保育士になることに自信がなくなり、他職種への就職を希望する学生がいます。

A. 多様な視点から保育士の魅力ややりがいについて語り合う時間を設けてみましょう。

- * 入学後、高度な専門性を求められる魅力的な職業であることを理解しつつも、専門的な知識の習得や保育職の責任の重さへの理解、実習等の経験から、保育士になることを躊躇したり断念してしまう学生もいるかと思います。
- * このような場合、ゼミや友人などと語り合うことで乗り越えられる場合もありますが、現職の保育士から具体的な保育職の魅力ややりがいを聞いたり、保育職に対する不安などを語る場を設けることで、改めて保育士の魅力に気づいたり、気持ちに変化が生じる場合もあります。
- * 例えば、就職内定者や卒業生、現職の保育士や園長、主任など多様な視点から保育職に関する話を聞いたり、何に不安を抱えているかなど自己の現状を率直に語れる場があると良いでしょう。
- * 多くの養成校では、卒業生や現職の保育士と在校生の交流などを行っているかと思いますが、どちらかというところ聴講や質疑応答などにとどまっているケースが多いかと思います。
- * しかし、保育士に就くことに自信がなくなっている学生の場合、その思いを卒業生や現職の保育士と小グループで語り合うことで、不安が軽減されます。したがって、改めて保育職の魅力に気づくためにも、そのような場を定期的に設定することも大切でしょう。

他にも……

- * 学生自ら様々な施設へボランティアなどに出向くことで、自分の適性（施設保育士など）に合っていることに気づくことができる。
- * 多様な特長の学生がいることを踏まえて、保育職の様々な働き方（正規職員や臨時職員等の選択肢があること等）に関するキャリア形成について共に考える。

キーワード(8) リカレント教育等卒後支援

Q1. 卒業生が就職先に適応できているか心配です。

A. 卒業生が気軽に相談できるように、卒業生や現場とのつながりをつくりましょう。

- * 保育士に魅力を感じて就職していく学生が多いですが、養成校での学びと現場とのギャップに戸惑うことが多々あります。早期離職の理由として、職場での人間関係の悩みも多く挙げられます。
- * こうした悩みを気軽に相談できる職場環境であれば良いですが、学生時代の苦楽を共にした教員や友人、ゼミやクラス、サークル等とのつながりは、卒業後に悩んだ時の支えになります。
- * 卒後1年目の卒業生の就職先に出向いて話を聞くことは、早期離職防止にも効果的です。
- * 実習訪問指導の実習園に卒業生がいるか事前に把握し、卒業生の様子もうかがうということが、卒業生にとって保育士の魅力の再確認につながり、励みになることもあります。
- * 常日頃から養成校が現場と連携して保育士養成を行っているのと、就職後も連携して卒業生の職場への適応を支えることができるでしょう。
- * 卒後、継続的に卒業生に働きかけ、動向を知ることは、学生時代に何を養成していく必要があるのか、保育士の高度な専門性による質の高い保育を通して輝く子どもたちの姿を十分に伝えてきたのか等、養成課程の見直しにもつながります。

他にも……

- * 卒業生と在学生の対談は、卒業生が自分の成長を実感したり、保育士の魅力を再確認する機会にもなる。
- * 早期離職や再就職等に関して、卒業生からの相談・連絡を受け付けられるように、SNSを活用するのも効果的。

Q2. 日々の授業だけでなく、リカレント教育も行うのは、養成校の業務が増えて大変だと思っています。

A. 普段から行っていることにリカレント教育を含められないか、考えるところから始めましょう。

- * 保育士資格を取得した後も、保育所保育指針等の改定や関連法令の改正が行われ、子ども・子育てをめぐる社会の状況も変わっていきます。
- * 保育士は高度な専門性が求められる魅力的な職業であるとも言えますが、保育職を続けながら学び直したい時、結婚や育児等で一旦、保育職から離れてそれらの変化に対応できるか不安になります。保育職に戻りたいと思っても躊躇してしまう時もあります。
- * そのような時に、出身の養成校や身近な養成校がリカレント教育を行っていると、一歩踏み出す大きな助けとなるでしょう。

- * しかし、その分、養成校の負担が過重になってしまえば、保育職の魅力を伝える養成校教員も疲弊してしまいます。
- * 普段の授業を公開することで、学び続けたい・学び直しをしたい卒業生にも開かれた学びの機会にすることができます。
- * 卒業生を授業に招いて、保育職の魅力について語ってもらうことを実習指導等の授業で多くの養成校が行っています。その際に、日頃行っている授業の資料をまとめて、保育の最新の動向に関するレジュメを作成しておき、卒業生に今の学生がどのようなことを学んでいるのか、事前の打ち合わせで伝えるということから始めることもできるでしょう。

- * そのような取組の中での卒業生とのやり取りを通して、卒業生のニーズを把握し、体系的なリカレント教育に発展させたり、出産・育児・介護等で保育職から一時的に離れた保育士を対象にした研修を行政と連携して開講する等、始められることを見つけて、少しずつできるところから積み重ねていきましょう。

他にも……

- * ICTを活用する技術は、これからの保育士に求められるスキルの一つになってきている。現場のニーズに応じて、保育におけるICTのスキルを習得できるよう、リカレント教育に取り入れていく。

保育士の魅力向上に関する取組:チェックリスト

1. 中高生への働きかけ

- 中学生や高校生に対して保育士の仕事を伝える取組を行っている。
- 学生募集の場面で保育士の魅力についての理解を促している。
- 保育士の魅力につながるような入学前教育を行っている。

2. 教科目の工夫

- 保育士の魅力や、学生に身につけて欲しい力について共通理解ができている。
- 各教科目の担当者間で連携している。
- 保育士資格を取得しない学生にも保育の魅力が伝わるようにカリキュラムを考慮している。

3. 実習指導

- 各実習担当者や教職員全員が連携して取組んでいる。
- 学生が実習で何を学ばばいいのかが分かるような指導内容になっている。
- 実習の振り返りを少人数、あるいは個別に丁寧に行っている。

4. キャリア教育

- 修業期間における具体的な目標設定と計画を立てている。
- キャリアや職業意識を形成するためのプログラムがある。
- 全学的なキャリア教育の位置づけが明確である。

5. 正課外活動

- 授業や実習以外に学生が保育の現場に入る機会をつくっている。
- 保育士の魅力向上につながるような学生の主体的な活動をサポートしている。
- 保育現場でのボランティアへのサポートを行っている。

6. 保育現場等との連携

- 各キーワードの取組において、保育現場・自治体・保育団体等と連携している。
- 保育現場・自治体・保育団体等との連携の実態について、保育士養成に関わる教職員間で把握している。
- 学部・学科として継続的に行っている。取組を定期的に振り返り・改善している。

7. 就職支援

- 学生の特長や就職先の情報を教職員で共有している。
- 卒業生や保育現場と往還的な連携を行っている。

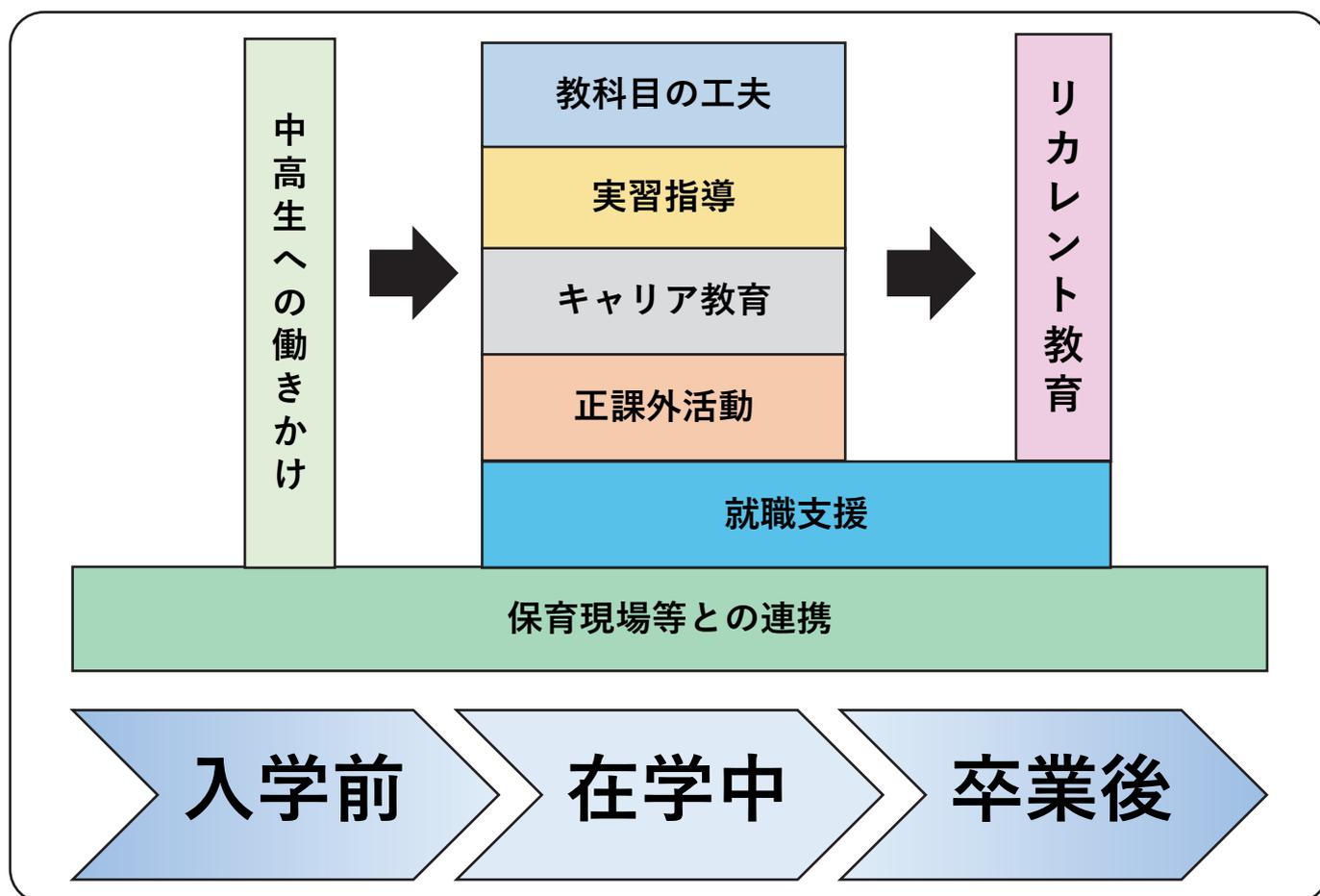
8. リカレント教育等 卒業後支援

- 卒業生の就職先での様子を把握している。
- 卒業生の動向を踏まえて、卒業後支援の体制を整えている。
- リカレント教育を組織的に行っている。

保育士の魅力向上の取組イメージ図

—保育士の魅力向上を組織的に行うために—

- * 所属する養成校では、保育士の魅力向上にどのように取り組んでいますか？
- * 現在行っている取組について、ハンドブックの8つのキーワードの観点から、入学前－在学中－卒業後の流れの中に位置付けてみましょう。
- * 最も力を入れている取組を大きな四角で表したり、それぞれの項目とのつながりが分かるように整理してみてください。
- * 継続していきたいこと、改善すべきこと、新たに始める必要のあることを話し合い、保育士の魅力を伝える取組を組織的に行っていきましょう。



おわりに

保育士養成において、保育実習指導及び保育実習の充実が重要であること、保育実習は実習施設と養成校が協働して行っていく必要性は、これまでも常に強調されてきました。保育実習を核とした実践力の養成が、保育士の魅力を伝える重要な役割を担ってきたといえるでしょう。

しかし、改めて「保育士の魅力を伝える保育士養成とは？」と問うてみると、保育士養成に関わる全ての教育や支援の在り方が問われていることに気付かされます。保育士養成施設における保育士の魅力向上の取組を考えれば考えるほど、「保育士養成課程を構成する教科目全体を通して、専門性の養成が行われているのか？」「保育士養成に関わる教職員が、協働的に保育士養成を行っているのか？」という問題に行き着いてしまうのです。そのため、ハンドブックを活用することで、保育士養成の質の向上という問いを教職員同士で話し合える内容になることを心掛けました。

教職員が協働し、組織的に保育士養成を行っているかを振り返る一つの方法として、ハンドブックには、保育士の魅力向上に関する取組のチェックリストとイメージ図を設けています。チェックリストとイメージ図を参考に、既に実施している工夫や取組の現状を把握した上で、更なる保育士の魅力向上のための工夫や取組の充実に活かしていただければと思います。

ハンドブックを作成するにあたり、ヒアリング調査の協力校による様々な取組はもちろんのこと、保育士養成研究所の過去の調査研究事業の研究報告書と保育士養成倫理綱領も参考にしました。研究報告書と保育士養成倫理綱領は全国保育士養成協議会のウェブサイトに掲載されています。併せてご覧ください。

<参考資料>

- ・平成27年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業（厚生労働省）
「保育士養成のあり方に関する研究」研究報告書
- ・平成28年度「指定保育士養成施設における教育の質の確保と向上に関する調査研究（厚生労働省委託調査研究事業）」研究報告書
- ・平成29年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業（厚生労働省）
「保育実習の効果的な実施方法に関する調査研究」研究報告書
- ・令和元年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業（厚生労働省）
「指定保育士養成施設卒業者の内定先等に関する調査研究」研究報告書
- ・令和2年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業（厚生労働省）
「保育士養成施設における保育士の魅力向上に関する調査研究」研究報告書
- ・一般社団法人全国保育士養成協議会「保育士養成倫理綱領」（令和2年6月20日採択）

Q & Aから学ぶ好事例

保育士の魅力向上のための養成校の取組

令和2年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業（厚生労働省）
保育士養成施設における保育士の魅力向上に関する調査研究

2021(令和3)年3月
一般社団法人 全国保育士養成協議会